

日本自然保護協会の 次の10年の 自然観察指導員養成について



日本自然
保護協会

自然のちからで、
明日をひらく。

これまでの発表でお伝えしたかったこと

- 自然への関心や本人・家庭の境遇に関係なく「誰一人とりのこさない」自然体験の機会を。私たちにこそ学びや、喜びがある。
- 「自然の恵み（厳しさ）」を現代的に楽しみながら、実感できる場づくりを。活動すればするほど自然も再生する活動を。
- これまでの発想にとらわれない形で、社会の多様な場面に自然体験の機会の創出を。自然や「自然を伝えること」の価値の再発見にもなる。

10年計画作成の手順

- 「自然観察指導員の本来の価値を、改めて発揮する11年」としたい！
- ワーキンググループでの検討
 - 指導員活動（本来の価値）の振り返り
 - 理想的な指導員活動の整理
 - 社会状況の変化・予測
 - 2030ビジョンおよび目標の策定
 - 2030計画骨子の策定

指導員活動の理想像

私たちの活動の目的

**自然保護につながる自然観を
日本に住む人全員が育んでいる**

それが実現したときにある「理想的な指導員活動」

- 指導員全員がそれぞれ「自然保護につながる自然観」と自分なりの「マイフィールド」を持ち、自然のしくみ・恵みを実感している人を野外や職場・日常において効果的に増やし続けている。
- その時代において最重要の自然保護テーマについてのムーブメントを作る発生源になり、価値観や言葉を社会に根付かせている。
- 優れた自然観察指導員の集団が大切な自然をまもり、人と自然のよい関係を築き、地域の誰もが人生をより豊かにできる場が、全国にくまなく点在している。
- 意欲・能力を高められる、観察指導員の多様なコミュニティが常にある

理想像に照らした、現状と課題

- 一般の方に自然観察指導員や観察会のイメージがない、もしくは魅力的でない。
- 自然好きではない人やその子どもを観察会に取り込む工夫が不足している。
- 指導員の体系的な養成・フォローアップと、コミュニティ作りの支援が不足している。
- 指導員活動の目的や目指すものなどの指針共有が不足している。
- NACS-J事務局が指導員活動を十分に把握していない。

ビジョン（2030年にかなえたい未来のイメージ）

- ① 過去には自然観察会と結びついていなかったシーンでも自然のしくみや魅力にきづける機会が社会に溢れており、境遇や自然への関心の高さにかかわらず多様な人が参加している。
- ② 自然観察指導員によって豊かな自然がまもられ、自然との関わりの少なかった人でも何度でも行きたくなる、自然の恵みを実感できる魅力的な場所がある。
- ③ 自然観察指導員は、自然観察や自然保護活動、日常の仕事や生活を通して社会的に影響力がある存在で本質的にカッコいい、信頼感がある、というイメージが世代をこえて社会に定着している。

ビジョンをかなえる「目標」

1. 自然観察や自然とのふれあいを主目的にしていない参加者が自然の魅力に気づけるしかけが、NACS-Jが関与せずとも社会で広く2パターン以上実施されている。
2. 高い意識・知識・技術を持った指導員が大切な自然を守り、多様な個性・境遇・障害を持つ方を含め、誰もが惹きつけられるような魅力的な場所※が順調に増えている。
3. 「指導員全員が持ちたい意識・知識・技術」を習得できる講習会・研修会を体系的に実施している。
4. “自然をまもりたくなる価値提示ができる人材”として、自然観察指導員が社会の2割の人に認識されている。

どのようにすれば、
「2030年にかなえたい未来」に近づけるか、
目標を達せられるか、
そのアクションを皆と考え、実行したい

目標達成のための計画骨子

- 4つのビジョンを叶えるための事業計画骨子
 - 関心・境遇によらず自然の魅力に気付けるきっかけの創出
 - 自然の恵みを実感でき、どんな人も惹きつける場づくり
 - 自然観察指導員のフォローアップ
 - ビジョンに共感する自然観察指導員の新規登録者数を増やす

目標達成のための計画骨子

ビジョン①

過去には自然観察会と結びついていなかったシーンでも自然のしくみや魅力にきづける機会が社会に溢れており、境遇や自然への関心の高さにかかわらず多様な人が参加している。

■現在の計画骨子案

- 全く新しい自然観察コラボや「うっかり自然観察会」のアイデアの全国共有、他分野団体との共同事業
- 相対的貧困に陥った家庭のこどもが参加でき、全国で広げたいような観察会の事業モデルを作る

目標達成のための計画骨子

ビジョン②

自然観察指導員によって豊かな自然がまもられ、自然との関わりの少なかった人でも何度でも行きたくなる、自然の恵みを実感できる魅力的な場所がある。

■現在の計画骨子案

- 自然の恵みを実感でき、どんな人も惹きつける場づくりの仕組みの検討
- だれもが（障がい者・幼児・外国人…）恵みを実感できるなどの、機能面にも注目した「場の要件」の整理と公表
- 要件を満たせる支援の実施（研修会、集客支援等）
- 公有緑地（青少年施設や都市公園等）への働きかけ

目標達成のための計画骨子

ビジョン③

自然観察指導員は、自然観察や自然保護活動、日常の仕事や生活を通して社会的に影響力がある存在で本質的にカッコいい、信頼感がある、というイメージが世代をこえて社会に定着している。

■ 現在の計画骨子案

- 自然観察指導員を社会に好意的にイメージ付けする
 - 各地の指導員個人の活動や経験のWEB上での紹介
 - 指導員や観察会の「本質を伝えられる愛称」の検討
- 相対的貧困に陥った家庭のこどもが参加でき、全国で広げたいような観察会の事業モデルを作る

目標達成のための計画骨子

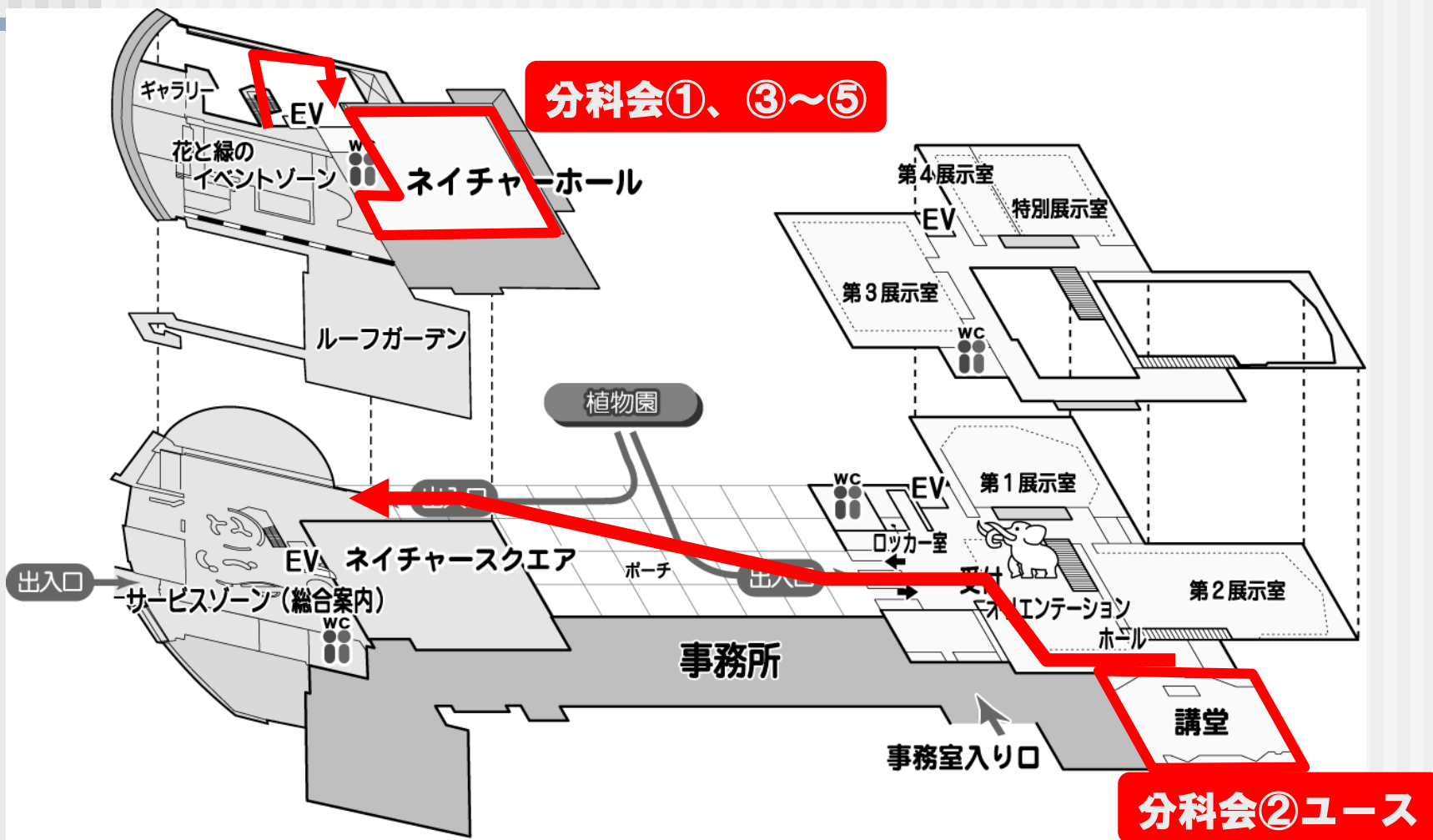
全てのビジョン及び目標に関わること

- 「指導員全員が持ちたい意識・知識・技術」を公表し、確実に習得できる体系的なフォローアップ
 - ステップアップの様々な道筋の事例紹介
 - ネイチュア・フィーリングやリスクマネジメント研修などの研修会の実施
- ビジョンに共感する新たな指導員の登録者を増やす
 - 「身近な存在（1万人に1人）に指導員がいる」を、全国の半数の県でできるように講習会を開催
 - 講習会の定員上限・参加費制度・運営方法等の見直し

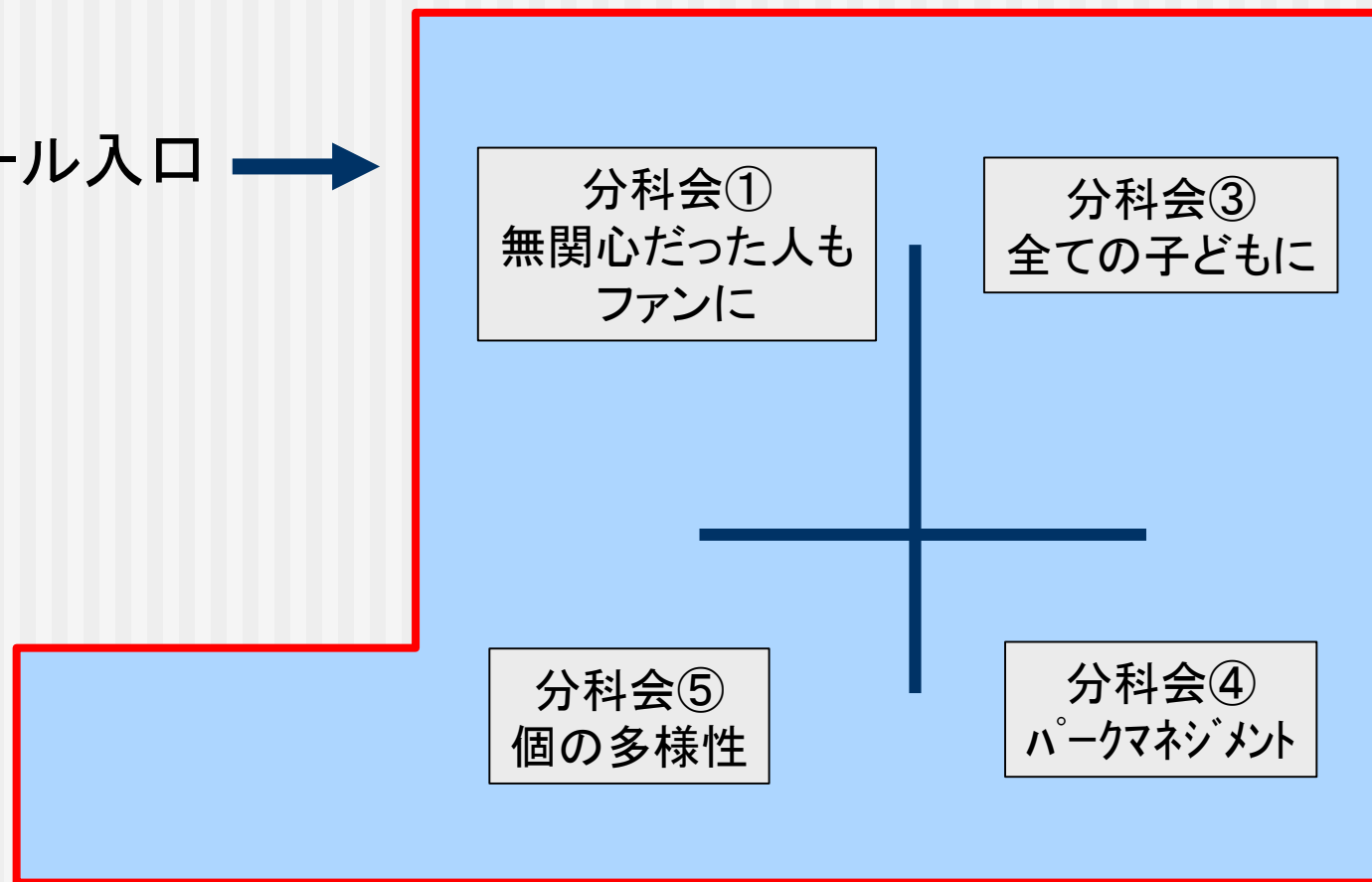
「多様なアイデアで社会に自然体験をあふれさせよう」 分科会のご案内

5つの分科会テーマ

- 分科会 1 : 無関心だった人もファンになる自然体験のチャンスを世の中にあふれさせよう
- 分科会 2 : あつまれ！ユース！若ものがひらく新しい地域活動
- 分科会 3 : すべての子どもに自然体験をとどけるには
- 分科会 4 : 次の時代のパークマネジメントと自然保護
- 分科会 5 : 「個の多様性」を自然保護教育に活かせるネットワーク組織とは



ホール入口 →



- ・ネイチャーホールまでの移動は、スタッフの誘導に従ってください。
- ・15:50には「講堂」に戻ってください。忘れ物注意！！！！